

政策番号	26	政策分野	消防・防災
------	----	------	-------

**基本方針** 京都に息づいている「人間力」に支えられた「地域力」を結集し、行政と一体となった防火・防災活動を推進する。また、あらゆる災害に迅速的確に対応する消防，防災，救急体制を確保し、だれもが安心して住み続けられる「安心都市・京都」をめざす。

担当局	消防局
-----	-----

共管局	
-----	--

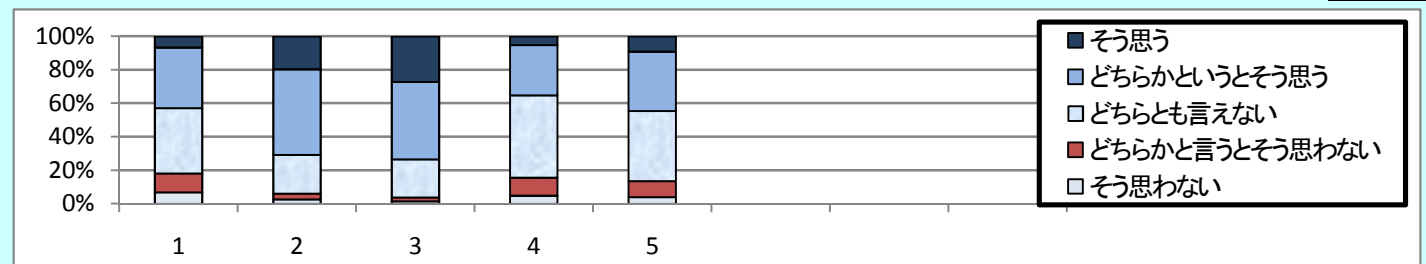
**政策の評価**

**1 客観指標評価**

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	年度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 火災による死者(放火自殺者等を除く)の割合(過去の平均値との比較)(%)	71.4	50%以下	-	-	78.5	71.4	50%以下	57.2%	b
2 市民が応急手当を実施した割合(%)	36.4	70%以上	-	-	41.6	36.4	44.6%以上	81.6%	c
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>客観指標総合評価</b>									<b>b</b>

**2-1 市民生活実感評価**

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	-	-	c
2	京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を火災などの災害から守る取組が進んでいる。	-	-	a
3	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。	-	-	a
4	応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。	-	-	c
5	防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。	-	-	b
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
<b>市民生活実感調査総合評価</b>				<b>b</b>



## 2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	3	34.3%

## 3 総合評価

<b>B</b>	政策の目的がかなり達成されている	年度	-
	<p>【客観指標】・火災による死者の割合は、火災発生件数とほぼ比例して前年から改善しているが、過去10年間の平均値を半減していく目標には届かず、b評価となった。</p> <p>・市民が応急手当を実施した割合は、前年から減少し、c評価となった。応急手当の受講者数は堅調に増加していることから、一般市民にとっての実践の難しさがうかがわれる。</p> <p>【市民の実感】・文化財を守る意識と消防組織の頼りがいについては、幅広く実感を得ている。応急手当の技術等の普及はあまり実感されておらず、受講者数の増加よりも応急手当の実践が進んでいない状況を反映している。</p> <p>【総括】・概ね取組等の実態に見合った実感を得た結果となった。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	年度	-

### 今後の方向性の検討

#### <この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
2601	火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進	-	-	B	275
2602	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化	-	-	B	277
2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上	-	-	B	279
2604	地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実	-	-	C	281

#### <今後の方向性>

・市民と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確に立ち向かう「力強い消防」を推進していくこととしている。

・東日本大震災の発生を受けて、これまでの防災対策の総点検を行い、スピード感を持って対応策を検討し、実行していくこととしている。

政策名	26	消防・防災
-----	----	-------

指標名	火災による死者（放火自殺者等を除く）の割合（過去の平均値との比較）（％）
-----	--------------------------------------

担当部室	予防部	連絡先	212-6672
------	-----	-----	----------

### 1 指標の説明

火災による死者（放火自殺者等を除く）の数

### 2 指標の意味

火災による死者数ゼロの安心なまちへの進捗状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

算出方法：火災による死者数÷過去10年間の火災による死者数の平均値（14人）  
出典：事業担当課調べ

### 4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	71.4	50%以下	過去10年間（平成12年～平成21年）の平均値の半減

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	78.5	71.4	7.1ポイント減	50%以下	過去10年間（平成12年～平成21年）の平均値（14人）の半減（7人）	57.2%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				根拠

備考	年単位で統計を実施しているため、年度を年と読み替えて記載
----	------------------------------

### 5 評価基準

最新数値が  
a：50%以下  
b：50%を超え80%未満  
c：80%を超え110%未満  
d：110%を超え135%未満  
e：135%以上

### 6 基準説明

過去10年間の平均値である14人（100%）を基準とし、半減50%（7人）以下の数値をaとした。過去10年間で最も死者数が多い年（平成19年）の135%（19人）以上をeとし、aとeの間をほぼ均等に分割し設定した。

### 7 評価結果

		23
-	-	b

指標名	市民が応急手当を実施した割合（％）
-----	-------------------

担当部室	安全救急部	連絡先	212-6702
------	-------	-----	----------

### 1 指標の説明

心肺停止傷病者に対して、市民により応急手当が実施されていた割合

### 2 指標の意味

高い救命効果を誇る安心なまちへの進捗状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

### 4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	36.4	70%以上	担当部で設定

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	41.6	36.4	5.2ポイント減	44.6%以上	基準年次（平成21年41.6%）と目標年次（平成32年70%以上）から当年度達成すべき数値を等差的に算出	81.6%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				根拠

備考	年単位で統計を実施しているため、年度を年と読み替えて記載
----	------------------------------

### 5 評価基準

最新数値の単年度目標値に対する達成度が  
a：100%以上  
b：90%以上～100%未満  
c：80%以上～90%未満  
d：70%以上～80%未満  
e：70%未満

### 6 基準説明

・単年度目標値を達成すればa評価  
・以下10%刻みでb～e評価

### 7 評価結果

		23
-	-	c